

# 朱太川の魚類

生き物調査結果報告会@第2回生物多様性祭り

2012年7月6日

宮崎佑介

# 黒松内町とのご縁



1999年8月16～18日：祖母と島牧へ向かう道中で黒松内町を通過

2009年10月16～18日：黒松内町に滞在、朱太川を観察

2010年6月4日～10月7日(のべ59日)：朱太川の魚類相調査を開始

2011年5月6日～12月8日(のべ119日)：朱太川の魚類相調査、標本調査

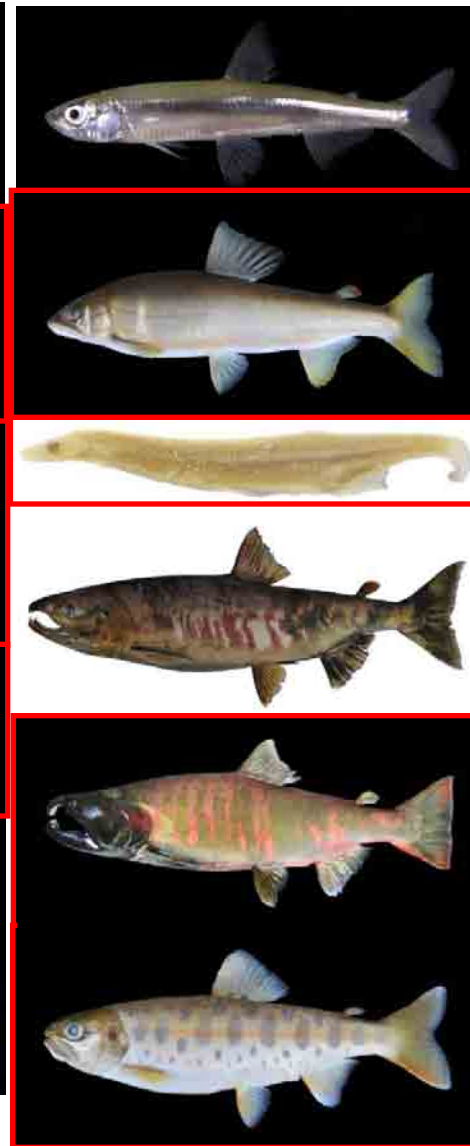
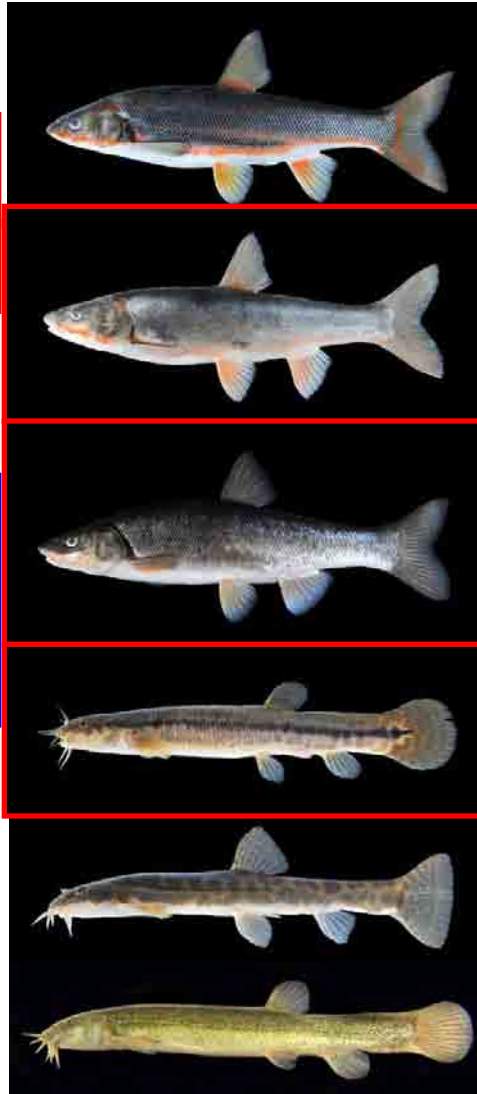
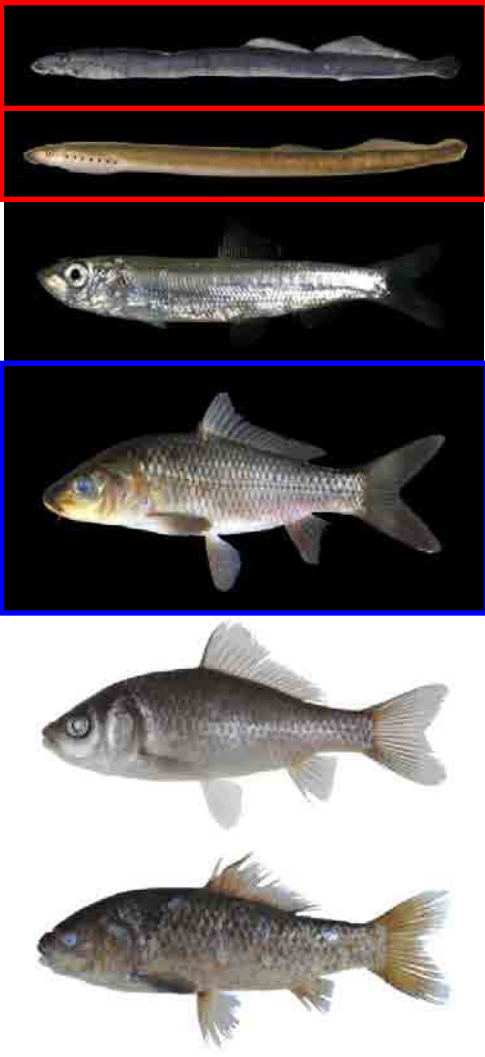
2012年2月20日～(のべ14日)：朱太川の魚類相調査、聞き取り調査、環境学習会



# 朱太川水系の魚類相



15科40種



# 朱太川水系の魚類相



# 朱太川の氾濫原湿地の喪失



朱太川・河口から9～11km地点。左: 1948年, 右: 2007年



©国土地理院

# 朱太川水系の過去の魚類相



## 過去の魚類相 朱太川水系 の魚類

Fishes of Shubuto River System



過去の川の風景写真や魚類写真

### カジカ中形型 (Cover up: 197 of Oka, 200)

分布：本州・北海道  
の日本海側。  
特徴：基本的な生態  
についてはカンキョ  
ウカジカとほぼ同様。  
朱太川水系では中・

下流域の裏で普通に見られるが、カンキョ  
ウカジカよりもやや流れの緩やかな場所に  
多い。本種も身体の模様を周りの環境に合  
わせて変化する。その体色は茶色味を帯  
び、腹面は白く、背面には3本の黒色帯が  
ある。鱗は白色で、基本的に模様は見ら  
れない。前鰓骨突起は1本。

食：鱒・鮭・鱒・虹鱒



大きさ 10cm 全長



大きさ 4cm 全長

### ハナカジカ (Color name: 197)

分布：新潟県・長野  
県以北。  
特徴：産卵はカンキョ  
ウカジカやカジカ  
中形型とはほぼ同様  
の時期に行われる。  
産卵は海へ下ること

はなく、一生を河川で過ごす。2012年現在、朱太川水系では、他の2種よりも上流域に  
生息しており、ほとんど同所的にみられることはなく、種が分けている。本種も身体の  
模様を周りの環境に合わせて変化する。その体色は茶色味を帯び、背面から見ると3  
本の黒色帯があるが、この黒色帯ははっきりしないこともある。鱗は黒色味が見られる。  
前鰓骨突起は3本。大型個体は第1背鰭の  
縁が黄色味を帯びる。また、カンキョウカ  
ジカやカジカ中形型と比較すると相対的に  
体長が大きいといった特徴がある。

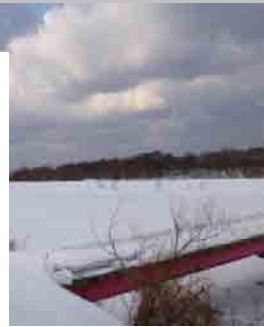
食：鱒・鮭・鱒・虹鱒



大きさ 8cm 全長



大きさ 10cm 全長





対象者が朱太川水系で採集・観察したことのある魚類：  
計42種

- ・同定は正しいと判断：34種 (1980年以降の採集・観察歴のないイトウや琵琶湖由来の国内外来種を含む)
- ・複数種を混同していると判断：7種 (チカ、ワカサギ、マスノスケ、カジカ中卵型、ルリヨシノボリ、ウキゴリ、ピリンゴ)
- ・同定は誤りの可能性があるかと判断：1種 (ギンザケ)

Ref. 魚類図鑑 & Nakabo (2002)

複製することができた魚類の写真資料



朱太川下流域で漁獲されたカラフトマスとコイの写真：加藤秋雄氏保有  
(カラフトマス：KPM-NR 44942、コイ：KPM-NR 44943)



## U 観察・採集経験から判断される各種の存在量の増減に関する聞き取り対象者の回答率

カワヤツメのみが統計学的に意味のある割合で減少が指摘された

	増加	減少	比較時期・減少の起こった時期
カワヤツメ		85.7%	1993年前後に急減
スナヤツメ北方種		40.0%	1993年前後から減小
コイ		46.2%	1960～1980年の間に生息池の埋め立て
フナ属魚類		60.0%	1960～1980年の間に生息池の埋め立て
ウグイ		42.9%	1980～1990年の間に減少
アユ		57.1%	1980年代後半から減少
サケ	42.9%	7.1%	20年以上前との比較
サクラマス	38.5%	7.7%	20年以上前との比較
トミヨ属淡水型		50.0%	1960～1980年の間に生息池の埋め立て
カジカ属魚類	21.4%	7.1%	20年以上前との比較

割合は、観察・採集経験者数(表1参照)を分母とする。





## U 詳細

カワヤツメは、南西沖地震(1993年)の発生後に急激な存在量の減少が生じたことを指摘した人が4名。南西沖地震の3年位前から減り始めていたと指摘した人が1名。20年前位(1992年位)に急減と指摘した人が3名。1980年～2000年の間にかけて急減が生じたことを指摘した人が4名いた。

スナヤツメもカワヤツメと同調して減少が生じたこと4名が指摘した。

コイの生息していた池沼が1960年～1980年の間にかけて、相次いで埋め立てられたことが6名から指摘された。

フナ属魚類もコイと同様に、1960～1980年の間の生息地の埋め立てが6名から指摘された。

アユは、1980年代から1980年代半ばに存在量の減少が生じたことを指摘する人が4名、1990年代とする人が1名いた。その他にも、45～65年前と比較すると大幅に存在量が減少していることを3名が指摘している。

ウグイは、1980～1993年の南西沖地震の間に存在量の減少を指摘する人が6名いた。

サケは、寿都漁協が河川での増殖事業を開始してから存在量の増加が生じたことを6名が指摘する一方、1名からは存在量の減少を指摘する声も挙がった。

サクラマスも、サケと同様に寿都漁協による河川での増殖事業開始後、存在量の増加が生じたことを6名が指摘し、存在量の減少が生じたことを1名が指摘した。

トミヨ属淡水型は、コイやフナ属魚類と同様に、1960～1980年の間に生息地の埋め立てが生じたことを5名が指摘した。

カジカ属魚類は、7年～15年前から存在量が増加したことを3名が指摘した。一方、50～60年前と比較して存在量が減少したと指摘する人も1名いた。また、存在量への言及はなかったものの、20年前と60年前と比較して大型個体が観察・採集されなくなったことを指摘する人がそれぞれ1名いた。



著 / 松浦武四郎、1863年「西蝦夷日誌 貳編」

「朱太川筋

川筋、鮭、鱒、桃花魚、鯡、**チライ**、杜父魚、雑魚多シ。」

Jordan & Snyder (1902)

「Others were examined in the same museum from Nemuro, Chishima, Settsu and **Shifto River**, in Hokkaido, and from Heigun River, in the province of Rikuchu, near Morioka.」

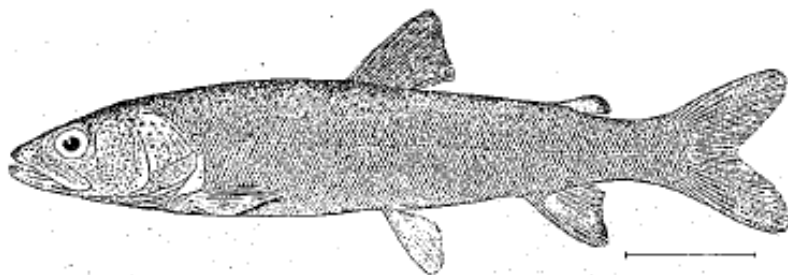
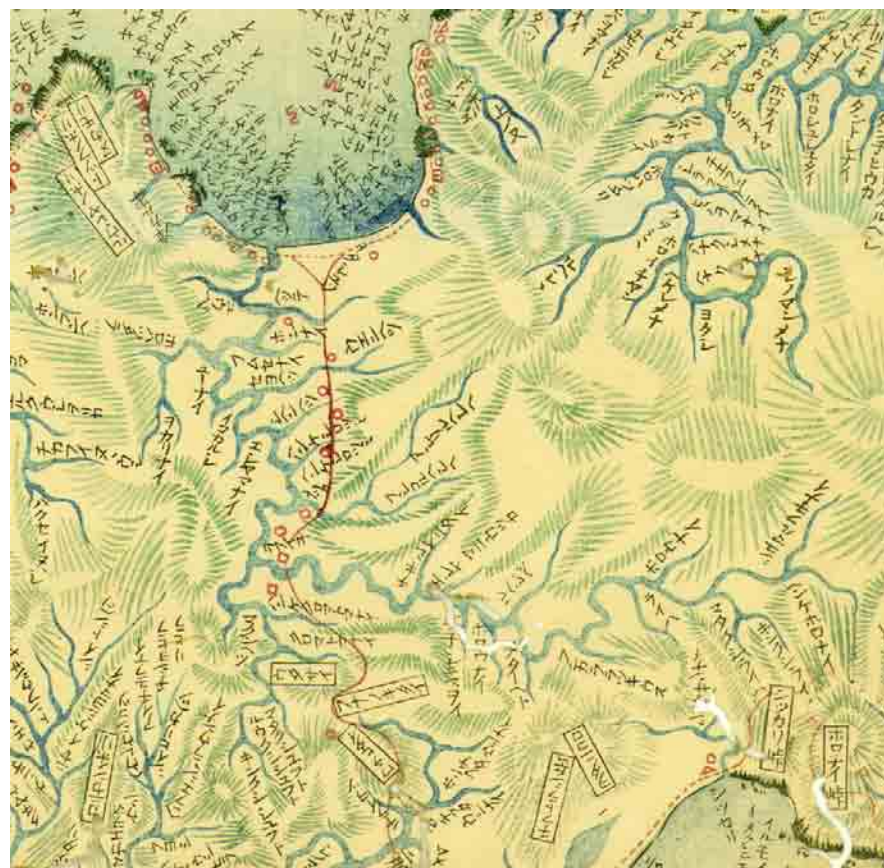


FIG. 3.—WUCHO BLACKSTONEI.



著 / 松浦武四郎、1859年「東西蝦夷山川地理取調圖」

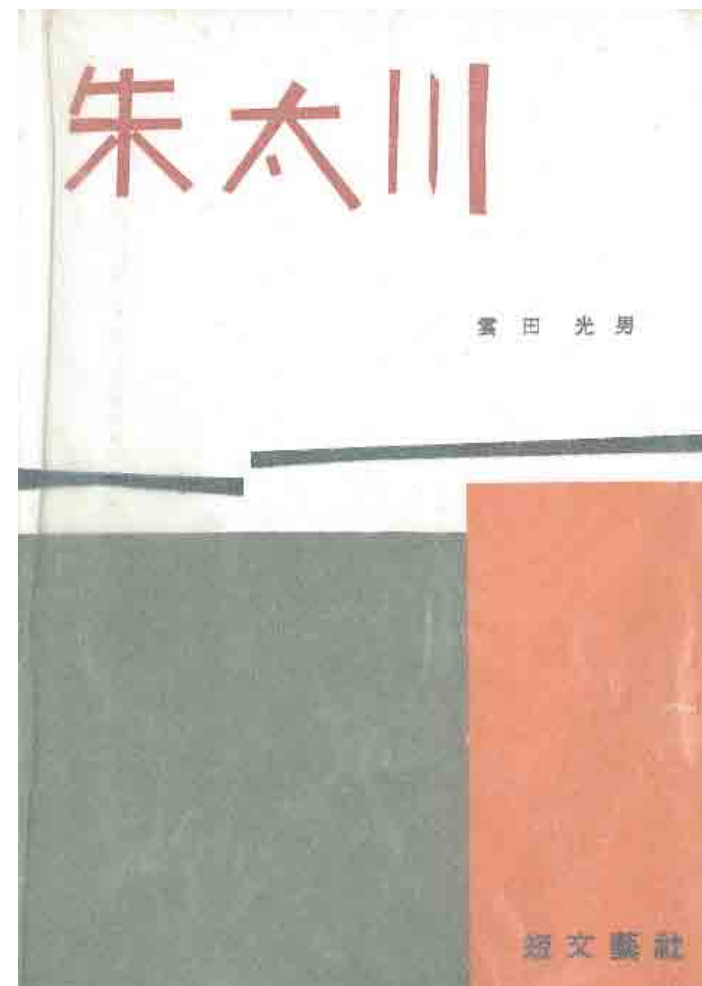


著 / 雲田光男、初出1957年文芸首都

「川底を睨みながら上流に向つて、右に左にのぼつて行く。居る居る。四十耗位の太さの、身長五百耗もある真黒な奴が、一匹の雌の産卵を待つて、その周囲を十五六匹の雄がうようよしている。魚に感づかれては、一瞬にして逃げてしまうので、下流から一匹ずつ鉤で引つけては、腰の魚籠に入れる。

(中略)

一晩に六七十匹は欲しいと思つた。これを串刺しにして、干し上つたら売つて、着物の借金を返そうと思つているのだ。こうした日が二カ月も続けられ、……」





- U 個体群絶滅と存在量の激減が示唆されるイトウ・カワヤツメ  
→ 氾濫原依存種であり、氾濫原湿地の再生の必要性を示唆  
参考情報にも、氾濫原依存の魚種の存在量・生息地減少あり
- U 放流にともなう問題も明らかに (外来種の随伴導入、病原菌の伝播等)  
→ 産卵床の保護や形成等による増殖方法の必要性を示唆
- U 黒松内生物多様性地域戦略のアクションプランの妥当性を確認



# オープンスクール



- ・黒松内中学校1年生、黒松内小学校4年生：  
室内での魚類の同定等の体験学習
- ・白井川小学校全校生：  
朱太川水系の水辺での体験学習

朱太川水系  
の  
魚類

*Fishes of Shubuto River System*



ご清聴ありがとうございました

